

池内遺跡の発掘調査Ⅱ



2007年 1 月27日



(財) 大阪府文化財センター

水田

地形の細かな傾斜に沿って畦畔を設置しています。

左：5－3区西（南から）

左手にある窪みが自然流路。

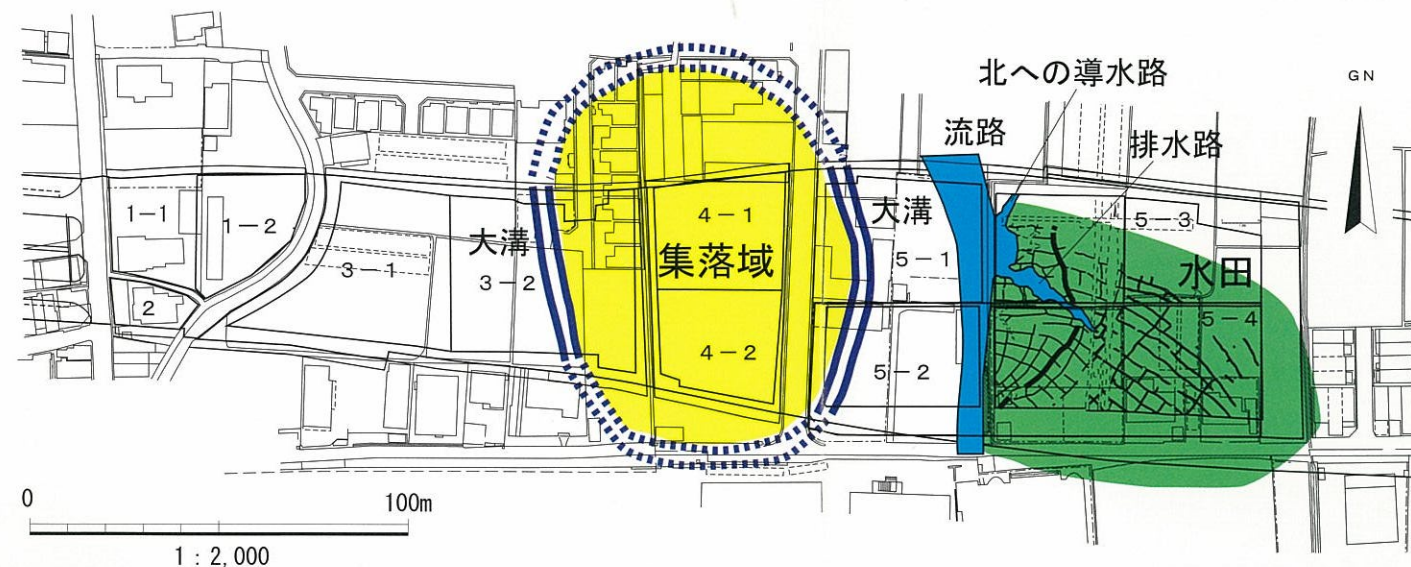
手前の溝が排水用のもの。

中央：5－4区西（北から）

右：5－4区中央（北から）



弥生時代のようす



環濠

集落の周囲に2条の大溝が巡っています。集落の東西幅はおよそ75mあります。

左：3－2区（南から）

人のいるところが大溝。掘削前の状況です。

右：5－2区南（北から）



集落内部

多くのゴミ捨て用の穴や柱穴などが見つかりました。

上：4－1区（南から）

この調査区は全域に弥生時代の生活の跡があります。溝は平安時代のものです。

下：4－1区（南から）

多くの土器や炭などのゴミが捨てられた穴です。



調査の概要

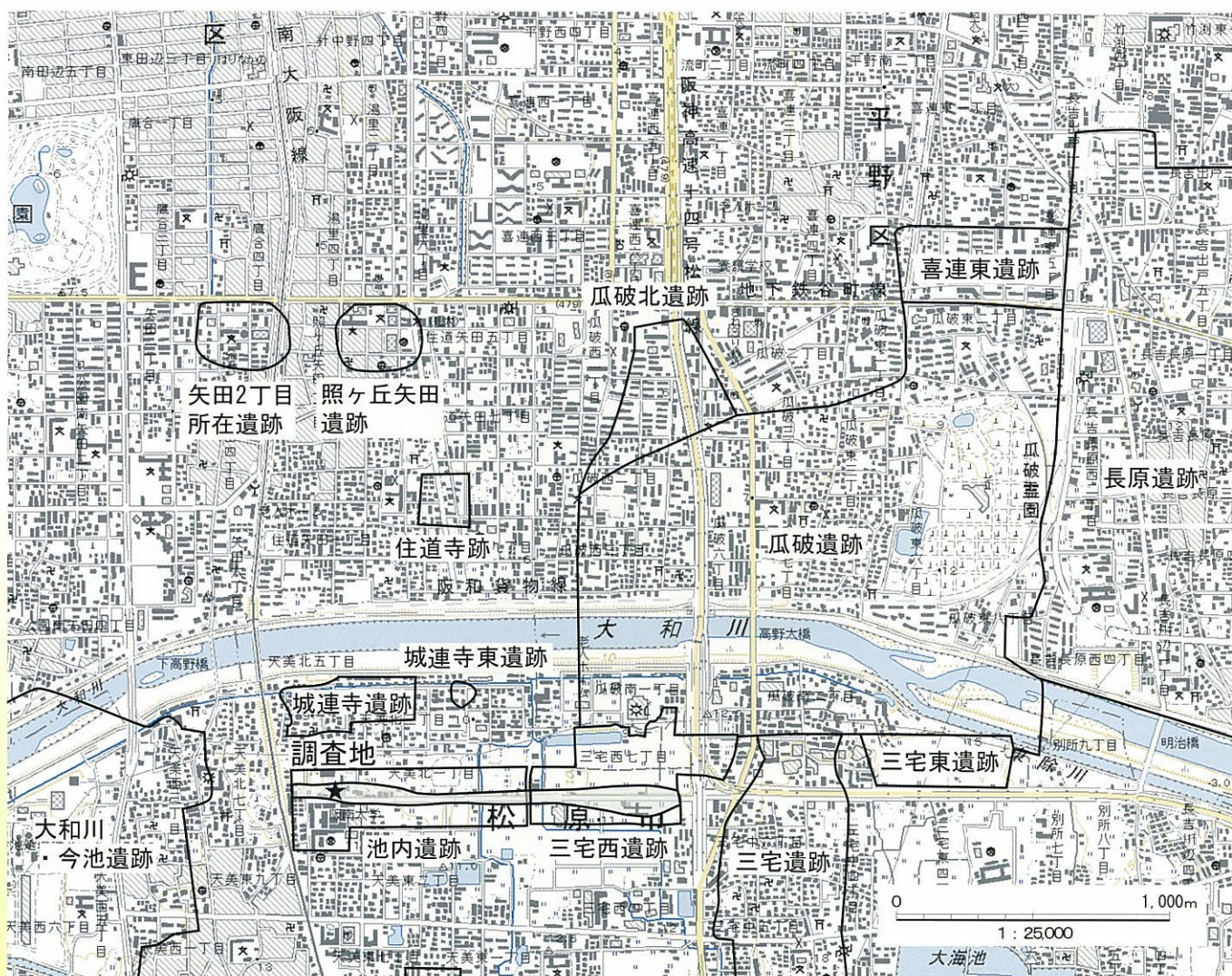
今回の調査は、都市計画道路大和川線及び都市計画道路堺松原線（一般府道住吉八尾線）建設に伴うもので、平成16年度より三宅西遺跡・池内遺跡の発掘調査を実施しています。両遺跡のこれまでの調査では弥生時代の集落・水田・墓、古墳時代の集落、平安時代の集落・耕作域など各時代のさまざまな生活の跡が見つっています。

弥生時代前期中頃（約2,500年前）の水田と集落は池内遺跡の西側で見つかりました。

水田 浅い窪地内に位置しています。地形の傾斜にあわせて細かく畦畔で区画した小区画水田とよばれるものです。水田のもっとも低い部分には排水用の水路があり、余分な水を西側の流路に流せるようになっています。流路より西側にはさらに低い部分が広がりますが、水はけが悪いためか水田としては利用されていません。

集落 水田が洪水による砂で埋まったのちにできた微高地に立地しています。東西を2条の大溝によって区切られた環濠集落とよばれるものです。多くの柱穴やゴミ捨て用の穴などが見つっています。

発見の意義 水田と環濠集落の発見は近畿地方の弥生時代前期集落の構造や立地を探る上で非常に重要な成果であるといえます。



調査地と周辺の遺跡

池内遺跡の発掘調査Ⅱ 平成18年度

都市計画道路大和川線及び都市計画道路堺松原線（一般府道住吉八尾線）建設に伴う発掘調査 現地説明会資料Ⅱ

発行／（財）大阪府文化財センター

〒590-0105 大阪府堺市南区竹城台3丁21番4号 TEL.072-299-8791

印刷／株式会社 明新社